

全国学力・学習状況調査について

4月18日に実施した全国学力・学習状況調査の結果が7月末に公表されました。今年度は国語・数学・英語で実施されました。これまでと異なる点は、英語が実施されたことと、国語・数学について、A問題（基礎的・基本的な知識・技能をみる問題）とB問題（基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかをみる問題）に分かれず、基礎的な学力を活用し、解答する総合的な問題の構成になったことです。

英語は文部科学省の「英語教育改革」の一環として実施され、これまでの「読む・聞く」だけでなく「書く・話す」の4技能について調査し、今後の英語教育に活用しようとするものです。理科と同じように3年に1回程度の調査になるようです。特に「話す」という領域では、学校のパソコンを使い、生徒の解答については音声を録音したものが、採点されました。その他生徒質問69項目、学校質問74項目があります。

学力調査について、国語は2ポイント、英語は5ポイント、残念ながら全国平均を下回る結果になりました。一方、数学は2ポイント上回りました。英語については、「話す」については全国平均より10ポイント上回りました。これは、英語の授業だけでなく、他の教科や日ごろの生活を通して、コミュニケーション力やプレゼンテーション力が向上してきているのだと思います。また、ALTとの授業でも「話す」力が培われたとも考えられます。しかし、英語全体で平均を下回った原因は、特に記述で答えるところが最も低かったことが考えられます。これは全国平均の約半分の正答率でした。この中には無解答（間違えたのではなく記入のないもの）の部分もたくさんありました。記述については、途中であきらめてしまうのか、答えがわからないのかはわかりませんが、途中まででも自分の考えられるところまで答えを書いてみる事が大切だと思います。どの教科でも、ここまで考えた、取り組んだということを残しましょう。記号についても少しでも自分の答えに近いものを書くことが大切だと思います。数学については、全国平均を上回った原因として、生徒質問用紙の「数学は好きですか」という問いに対し、「好き」と答えた生徒が全国平均より上回っていました。昨年度、少人数で数学の授業に取り組んだことも理解力を高めた要因の1つかもしれません。それぞれの教科において、すべての領域・単元について全国・三重県平均を下回っているわけではなく、上回る項目も多くあります。以下に港中学校3年生の強み、弱みを表記します。

1. 学力調査について

(1) 国語について

すべての教科、生活の基本となる国語ですが、ほぼ全国平均でした。

その中で弱いところは「封筒の書き方」です。今回の調査では文字の大きさ、文字の形、宛名や住所の配列などが採点されました。2年生の時、職業体験を終えお礼の手紙を書くときに、学習した内容でした。

また、言葉の一部を使った（略した）会話や文章の活用の仕方を理解する問題で正答率が下がりました。その場に合った言葉の使い方、またその場面を連想し、言葉がもつ意味、使い方を考えることが必要です。

強みとしては、「書くこと」が全国平均を上回りました。書くことは、日ごろから、様々な活動の中で力をつけてきたと思われます。これからは、書く力に加え、話す力をつけて欲しいと思います。

(2) 数学について

数学については全国平均を上回りました。一人ひとりの強み、弱みは異なりますが、全体として領域で得意、不得意がはっきり分かれた結果になりました。不得意な領域として以下のものです。

①正負の数の特性を考え、四則計算の結果を予測できる。

②三角形の合同条件を理解し、反例（すべての条件が満たしていなくても、一部でも満たさないものがあるれば成立しないと言う意味）を証明できる。

また、得意な領域は以下のものです。（ ）内は正答率です。

①連立二元一次方程式が解ける。（75%）

②不確定な事象について実験などを通して、確率を理解し、その確率を求めることができる。（84%）

③三角形の合同条件を理解している。（81%）

（3）英語について

英語については今回初めての調査でした。全体は全国平均より5ポイント下回りましたが、「話す」は10ポイント上回りました。これはすばらしいことです。

全体として各領域でほぼ全国平均でした。しかし、いくつかの領域で大きく下回っていて、弱みをはっきり表れた結果になりました。不得意な領域は以下のものです。

①英語の文章を聞き、必要な情報を聴き取ることができる。

②英語の文章を読み、必要な情報を性格に読み取ることができる。

③英語の文章を読み、書かれた内容に対しての自分の考えを英語で書くことができる。

④与えられた情報から、3人称単数現在の肯定文、否定文を書くことができる。

このことからわかるように、英文を読んだり聞いたりする中で、内容の全体を理解し、考えてまとめる問題が弱いように思われます。文章の要旨がつかめるようになって欲しいと思います。

2. 学習状況（生徒質問）・学校調査について

①生徒質問用紙から全国と比較して強み、弱みを報告します。数字はおおよそのものです。

○強み（全国の割合に対して港中の生徒の割合が高かったもの）

・基本的な生活習慣の確立。（朝食の摂取・起床、就寝時間）	95%	} 規範意識 自己有用感
・家の人（兄弟、姉妹を除く）と学校の出来事について話をする。	80%	
・自分には良いところがある。	75%	
・最後までやり遂げて、うれしかったことはありますか。（ある）	90%	
・人が困っているときは進んで助ける。	90%	
・いじめはどんな理由があってもいけないこと。	97%	

○弱み（全国の割合に対して港中の生徒の割合が低かったもの）

・家庭学習

平日の家庭学習の時間。

新聞を読む。

家庭学習は自分で計画を立てている。

} これらの項目は全国平均をかなり下回っています。

※・将来の夢や目標を持っている。 70%

・学校に行くのは楽しい。 80%

} 全国平均とほぼ同じですが、今後は強みとなるようにしていきたいです。

②学校調査

全国の取り組み結果と違いはなく、今後はさらに内容を充実させることが必要です。

3. 今後の取り組みについて

本校では調査の結果を真摯に受け止め、強みを伸ばし、弱みを克服できるよう検討していきます。教科については、すべての教科で「書く」「話す」「聞く」「読む」の活動を通して学習内容が深く理解できるように、指導方法の改善に努めていきたいと思います。また、家庭学習の充実を図るため、宿題や家庭学習の題材を提供し、家庭での勉強時間の確保と習慣をつけて、そのことが授業内容の理解につながるようになっていきたいと思います。

これからも学力と人間形成の両面から、ご家庭や地域のみなさまと連携し、お子様の成長を支援していきたいと思えます。どうかご理解・ご協力・ご支援をお願いいたします。